

～ともに学び、ともに育つ学び舎づくりを目指して～

まちだの新たな学校づくり通信

Machida New School Project 2040

第2号（未就学児向け：2021年7月20日発行）

- 1 頁 通信のご案内
- 2 頁 新たな教室？
- 3 頁 新たな通学区
- 4 頁 今後のプロセス

こんにちは！町田市教育委員会です。

教育委員会では、少子化と深刻な学校施設の老朽化という問題に対応しながら、未来の子どもたちにより良い教育環境をつくるために「町田市新たな学校づくり推進計画」(以下「推進計画」)を策定しました。

推進計画では、2040年度までに、市立小学校を42校から26校、市立中学校を20校から15校に統合し、統合時に校舎を建て替えることで、老朽化の進んだ教育環境を「学校に通学して学ぶ意味」を踏まえた新たな教育環境に刷新する目標を掲げています。

この推進計画に基づいて、2021年度から統合新設小学校の検討に着手する「本町田地区」「南成瀬地区」「鶴川地区」における各校のPTA等の保護者団体の役員の方々に、推進計画の内容を説明し、今後の検討の進め方について相談を進めています。

その中で、「在校生よりも未就学児が対象となる学年が多いので、推進計画の知らせをした方がよいのではないか」という提案をいただいたことから、在校生の保護者を対象に発行した本通信の創刊号を再編集し、市内の幼稚園・保育園などを通じてお配りすることにいたしました。まちだの新たな学校づくりの取り組みは、今後、町田市ホームページなどを通じて随時お知らせしていきますので、ぜひご覧ください！



町田市ホームページ

なぜ学校の統合をしなければならないの？

見てみよう！町田市の少子化と学校施設の老朽化

【少子化の状況】

町田市は団地のまちです。

高度経済成長期に大規模団地が建設されたことによって人口が増え、1980年代には、小学生が3.7万人、中学生は1.8万人まで増加しました。

現在は、小・中学生は減少を続けており、2040年度には、小学生が1.5万人、中学生が7千人まで減少する見込みです。

【老朽化の状況】

町田市では、高度経済成長期に建設した学校が一斉に老朽化を迎えています。

特に2024～2044年度に築60年を迎える学校が集中しており、すべての学校を建て替えようとすると、市庁舎(建設費140億円)を毎年建設する費用に匹敵する予算が必要となることから、すべての学校を建て替えることは難しい状況です。

図1 児童生徒数の将来推計

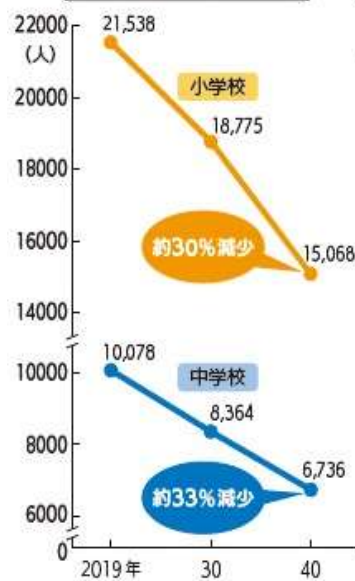
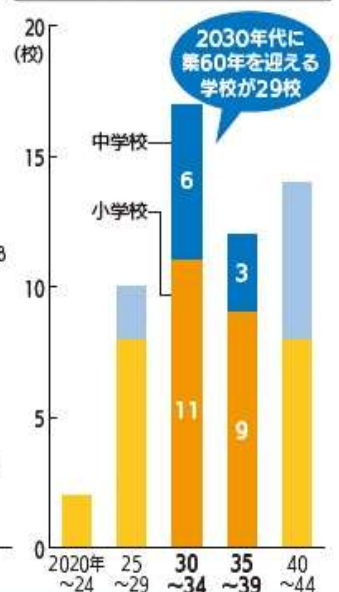


図2 築60年*を迎える時期と学校数



*鉄筋コンクリート造(耐用年数60年)の学校施設を建て替えるまでの平均年数は約42年となっています。(文部科学省調査)

新たな学校づくりで教室はどう変わる？

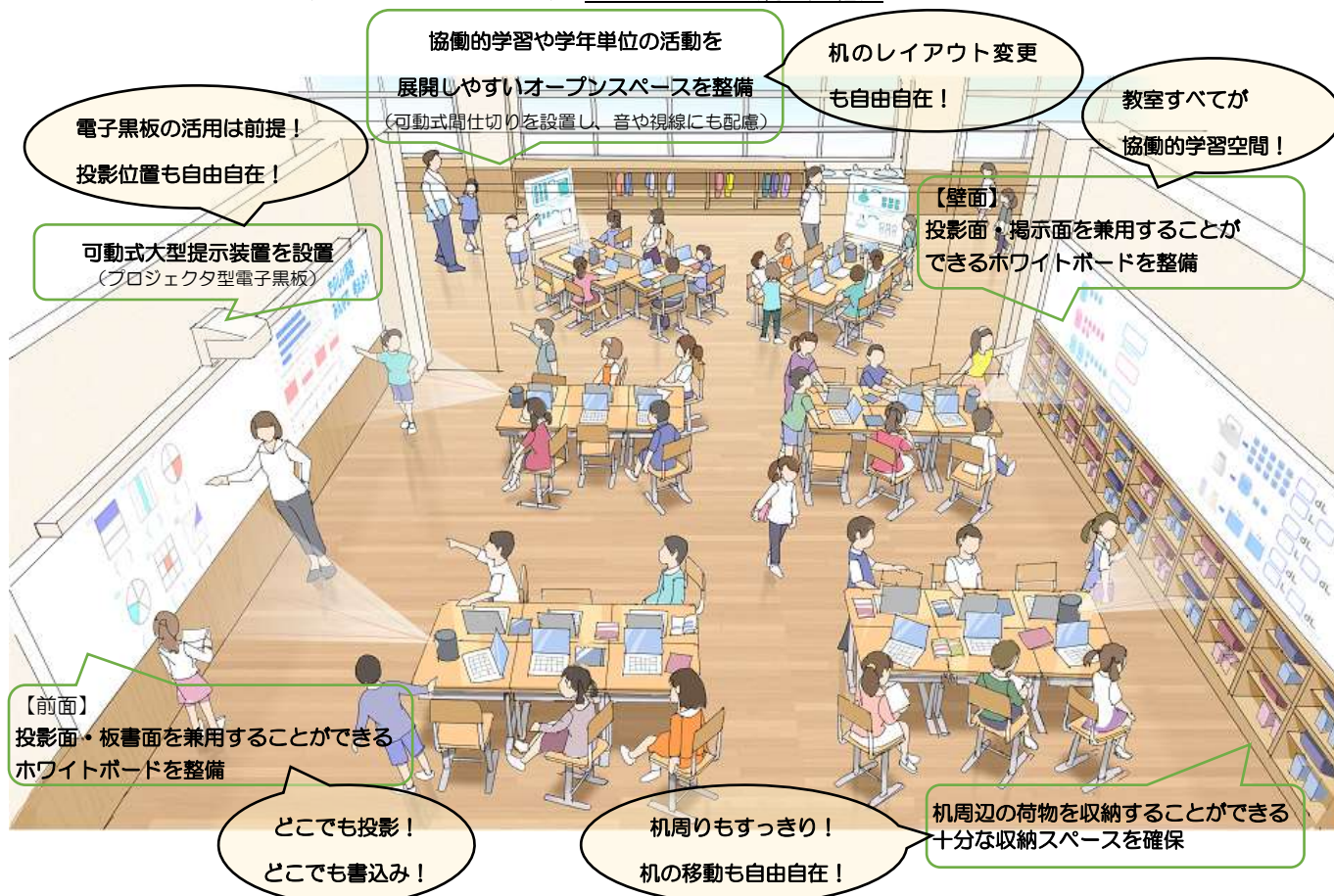
協働的な学習を重視した新たな教室をつくらう！

教育委員会では、学校統合を老朽化した校舎等を建て替えて学校施設環境を刷新する機会だと考えています。そのため、計画の名称を「町田市新たな学校づくり推進計画」としました。

また、学校施設環境を刷新するため、教育委員会が設置した審議会においてご議論いただいた「学校に通学して学ぶ意味^(注)」を踏まえて、子どもたち同士の協働的な学習が展開しやすくなるような教室をつくる方針を定めました。

その新たな教室の機能について、小学校を事例にイラストを交えてご紹介します。

■小学校の普通教室の面積（オープンスペースあり）： $64\text{ m}^2 \rightarrow 110.5\text{ m}^2$ （約 1.7 倍）
（オープンスペースなし）： $64\text{ m}^2 \rightarrow 76\text{ m}^2$ （約 1.1 倍）



(注) 学校に通学して学ぶ意味とは…

将来の教育活動では、リモート授業や AI 等を活用して児童・生徒に個別最適化した学習内容を示すソフトウェアの普及によって、「知識の習得」は ICT を活用した教育活動が優位になっていくことが想定されます。

しかし、教育の目的が「人格の完成」であることを考えたときに、教育委員会では、多様な価値観を持つ児童・生徒が学校に通学することで、協働的な学習はもとより、学校生活そのものを通じて子どもたち同士で話し合ったり励まし合いながら、ともに学び、ともに生活する中で、思考力・判断力・表現力や社会性・人間関係を形成する力といった資質・能力を育むことが、学校に通学して学ぶ意味だと考えています。

※紙幅の都合上、中学校の新たな教室をご紹介することができませんでした。教室の面積を 1.2 倍 ($64\text{ m}^2 \rightarrow 80\text{ m}^2$) にしたり、鞆が収納できるロッカースペースの整備といった機能拡充をする方針を定めています。

右の QR コードから推進計画の内容を確認することができますので、推進計画の 17 ページに掲載している中学校の教室イラストをぜひご覧ください。



町田市新たな学校づくり
推進計画 (PDF)

将来の子どもたちは、どこの学校に通学するの？

新たな通学区域と学校候補地を見てみよう。

推進計画では、2040年度までに実現することを目指す「新たな通学区域・学校候補地」、建て替え等を行う学校の「基本計画検討着手目標年度」、学校統合等を行って新校舎で教育活動を開始する「新校舎使用開始目標年度」を定めていますので、その概要をご紹介します。

2021年度は、未来の子どもたちにより良い教育環境を速やかに整備するために、「本町田地区」「南成瀬地区」「鶴川地区」に統合新設校を整備するための検討に着手します！

町田市立小・中学校 新たな通学区域一覧表

	通学区域 (中学校区)	通学区域 (小学校区)	通学区域となる町区域		通学区域 (中学校区)	通学区域 (小学校区)	通学区域となる町区域
堺地区	1 堺 ・武蔵岡	1 相原 ・大戸	相原町	町田地区	8 町田第一	13 町田第一	原町田5～6丁目、中町1～4丁目
		2 小山ヶ丘	小山ヶ丘6丁目、小山ヶ丘4～5丁目の一部、小山町の一部		14 町田第四	旭町1～3丁目、森野1～6丁目	
	2 小山	3 小山	小山町の一部		9 町田第二	15 町田第二	原町田1～4丁目
		4 小山中央	小山ヶ丘1～3丁目、小山ヶ丘4～5丁目の一部、小山町の一部		10 南大谷	16 町田第六 ・南大谷 ・高ヶ坂	高ヶ坂1～7丁目、東玉川学園3～4丁目、南大谷
忠生地区	3 忠生 ・小山田	5 忠生 ・山崎※1 ・函師	函師町、忠生1～4丁目、根岸1～2丁目、根岸町、矢部町	南地区	11 町田第三 ・山崎	17 町田第五	玉川学園1～8丁目
		6 小山田 ・小山田南	小山田桜台1～2丁目、上小山田町、下小山田町、常盤町			18 町田第三 ・本町田東 ・本町田	藤の台1～3丁目、本町田
	4 木曽	7 忠生第三 ・木曽境川	木曽西1～5丁目、木曽東1～4丁目、木曽町		19 山崎※1 ・七国山	山崎1丁目、山崎町	
鶴川地区	5 鶴川	8 鶴川第一 ・大蔵	大蔵町、小野路町、野津田町の一部	南地区	12 南	20 南第一	金森4～5丁目、南町田1～5丁目
						9 鶴川第二 ・鶴川第三※2	鶴川11丁目、能ヶ谷1～7丁目、広袴町
	6 鶴川第二 ・真光寺	10 鶴川第三※2	真光寺1～3丁目、真光寺町、鶴川2～6丁目、広袴1～4丁目		13 つくし野	22 つくし野 ・南つくし野	小川6～7丁目、つくし野1～4丁目、南つくし野1～4丁目
		11 三輪	三輪町、三輪緑山1～4丁目			23 鶴間	鶴間1～8丁目
	7 薬師 ・金井	12 藤の台 ・金井	金井1～8丁目、金井町、金井ヶ丘1～5丁目、野津田町の一部、薬師台1～3丁目		14 成瀬台	24 成瀬台 ・成瀬中央	成瀬台1～4丁目、成瀬1～4丁目、西成瀬1～3丁目、東玉川学園1～2丁目
			15 南成瀬	25 南第二 ・南成瀬	成瀬5～8丁目、南成瀬1～8丁目		
				26 小川	小川1～5丁目、成瀬が丘1～3丁目		

新校舎使用開始目標年度（小学校：～2039年度）

項番	学校名 (候補地名)	学校候補地※3	基本計画 検討着手 目標年度※4	新校舎 使用開始 目標年度※5	(参考) 想定統合 年度※6	項番	学校名 (候補地名)	学校候補地※3	基本計画 検討着手 目標年度※4	新校舎 使用開始 目標年度※5	(参考) 想定統合 年度※6
1	本町田東	○	2021	2028	2025	11	町田第六	○	2027	2034	2031
	本町田						高ヶ坂				
	町田第三						南大谷				
2	南第二	○	2021	2028	2025	12	町田第四	-	2027	2034	-
	南成瀬					13	町田第五	-			
3	鶴川第二	○	2021	2029	2026	14	鶴川第一	○	2030	-	※8
	鶴川第三※2						大蔵				
4	鶴川第三※2	○	2021	2029	2026	15	つくし野	(○)	2030	2036	2036
	鶴川第四	○					南つくし野				
5	南第一	-	2022	2028	-	16	つくし野セントラルパーク	○	2030	2037	2034
	小山田						忠生第三	○			
6	小山田南	○	2024	2031	2031	17	木曽境川	○	2031	2038	2038
	忠生						相原	○			
7	山崎※1		2025	-	2030	18	小中一貫ゆくのき学園(大戸)		2031	2038	-
	函師	○					町田第一	-			
8	町田第二	-	2025	2032	-	19	成瀬台	○	2033	2039	2036
	山崎※1						成瀬中央	○			
9	七国山	○	2027	2033	2030	20	藤の台		2033	2039	2039
	南第三						金井				
10	南第四	○	2027	2033	2033		金井スポーツ広場	○			

新校舎使用開始目標年度（中学校：～2039年度）

項番	学校名 (候補地名)	学校 候補 地※3	基本計画 検討着手 目標年度※4	新校舎 使用開始 目標年度※5	(参考) 想定統合 年度※6
1	薬師 金井	○	2024	2030	2027
2	町田第三	(○)	2025	2031	2031
	山崎 木曾山崎公園	○			
3	南成瀬	-	2025	2031※9	-
4	鶴川第二	○	2030	2036	2036
	真光寺				
5	南	-	2031	2037	-
6	堺	○	2031	2038	2038
	小中一貫ゆくのき学園（武蔵岡）				
7	忠生	○	2033	2040	2037
	小山田				

- ※1 統合時に、山崎小学校区を函師小学校区と七国山小学校区に分割。
- ※2 統合時に、鶴川第三小学校区を鶴川第二小学校区と鶴川第四小学校区に分割。
- ※3 通学区域統合の検討対象となる学校の組み合わせの場合は、学校を建設する候補地に「○」を記載。なお、学校が設置されていない候補地（学校用地を除く）は、実現可能性も含めた検討・調整が必要となることから、学校が設置されている候補地の中から次点となる候補地として「()」を付して記載。計画期間において通学区域統合の検討対象とならない学校の場合は「-」と記載。
- ※4 統合新設校 基本計画検討会で基本計画の検討に着手する目標年度を記載。
- ※5 建替えした学校で授業を開始する目標年度を記載。
- ※6 通学区域が統合となる想定年度を記載。通学区域の統合を段階的に行う可能性がある通学区域は、2段階書きで表記。
- ※7 統合にあたって、函師小学校を増築工事で対応する想定のため「-」と記載。
- ※8 統合にあたって、鶴川第一小学校の既存校舎を活用する想定のため「-」と記載。
- ※9 長寿命化改修工事で対応を想定。

みんなでつくろう！まちだの新しい学校！

統合新設校の検討はどのように進めるの？

■統合新設校基本計画決定までのプロセス

町田市新たな学校づくり推進計画 決定

町田市新たな学校づくり推進計画 説明会
※市内を5地区にわけて説明会を実施。

統合新設校 意見交換会

現在の通学区域別に、保護者や地域住民の皆様と意見交換会を実施し、統合新設校を設置するうえでの個別具体的な検討課題を確認。

統合新設校 基本計画検討会

意見交換会で確認した検討課題を含めて、統合新設校の基本計画に関する検討事項について、保護者、地域住民の皆様と話し合っけて検討。

統合新設校 基本計画 決定

保護者対象

本町田・南成瀬・鶴川地区の
意見交換会を開催します！！

2021年8月末以降、本町田地区（町田第三小・本町田東小・本町田小）、南成瀬地区（南第二小・南成瀬小）、鶴川地区（鶴川第二小・鶴川第三小・鶴川第四小）の保護者を対象とした意見交換会を開催します！！

対象となる通学区域の未就学児の保護者もご参加いただくことができます。

現在、開催日と場所を調整していますので、意見交換会の情報をお知りになりたい場合には、下記のQRコードからWebフォームにアクセスしてください。

お住まいの地域とメールアドレス等を登録いただくと、意見交換会の開催情報を電子メールでご案内いたします。

本町田地区・南成瀬地区・鶴川地区
意見交換会の開催情報の
メール配信登録フォーム
(Google フォーム)



【問い合わせ先】

①新たな学校づくり推進計画について

町田市教育委員会学校教育部 教育総務課総務係

電話 042-724-2172

②通学区域（学区）について

町田市教育委員会学校教育部 学務課

電話 042-724-2176